

氏名	藤 本 俊 一 郎
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1296 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和57年 6 月 30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	局所脳圧迫による神経機能障害に関する基礎的研究 第 1 編 水素クリアランス法の基礎実験および脳灌流圧低下の 神経機能に及ぼす影響 第 2 編 術後に神経機能障害を残さないための術中の指標につ いて
論 文 審 査 委 員	教授 大月三郎 教授 森 昭胤 教授 堀 泰雄

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

雑種成犬を用い脳筧による局所脳圧迫に伴う局所脳循環，神経機能，病理組織の変化を観察することにより局所脳圧迫の病態，術後に神経機能障害を残さないための術中の指標について検討し，次の結果を得た。

圧迫局所では圧迫圧 40-50 mmHg（脳灌流圧 110 mmHg）で皮質血流量は急速に減少した。一方体性感覚誘発電位の N_1 振幅は圧迫圧 30 mmHg で皮質血流量が圧迫前の 90 % に保たれている時期にすでに約 70 % に，50 mmHg で約 50 % に低下し，90 mmHg では消失した。圧迫直下および近傍部の脳血管，脳組織が distortion により直接機械的損傷を受け，循環障害による脳虚血と神経構築の破壊に起因する神経機能障害がおこることが示唆された。また術中に圧迫開始圧を 40 mmHg 以下に保つことと N_1 振幅を圧迫前の 50 % 以上に保つことが，術後の神経機能障害を防止するための指標になることが示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は脳外科手術中の脳筧による局所脳圧迫と術後の神経機能障害との関係を調べるために，圧迫圧と局所脳循環，体性感覚誘発電位，病理組織の変化について実験的に研究したものである。局所脳圧迫と脳障害との関係について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。